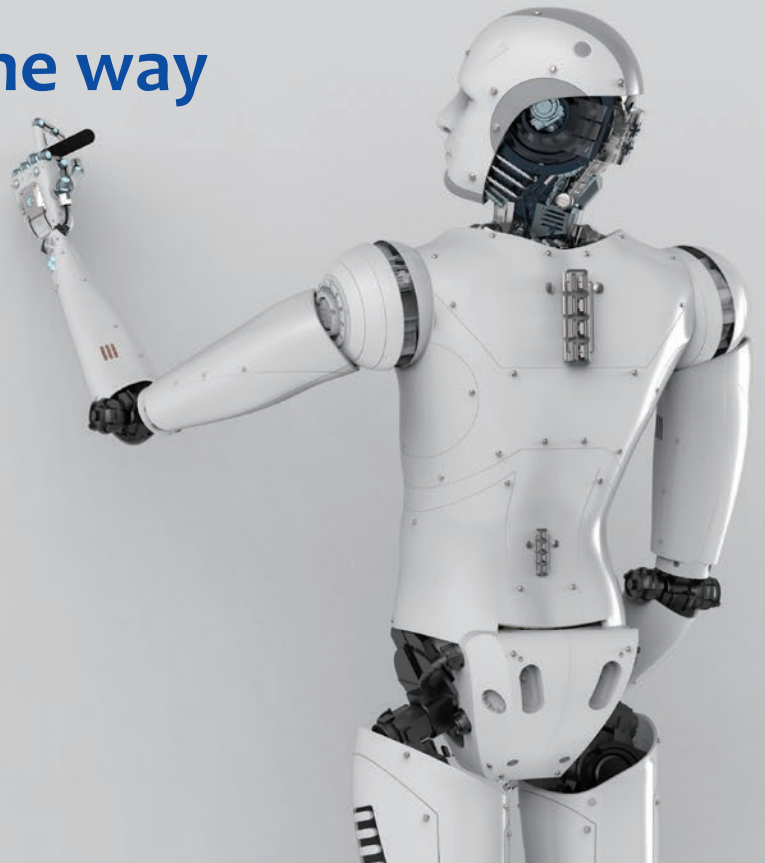


FUJI robots lead the way



2020 ANNUAL REPORT

事業編

アニュアルレポート2020年3月期

コーポレートメッセージ

innovative spirit

「innovative spirit」は当社の想いを強く宣言する言葉です。
すべてのはじまりは「innovative spirit」、これまでの歴史が生んだ数々の革新的技術、
創造へ挑戦し続ける精神が私たちの原動力です。

コーポレートスローガン

お客様に感動を!

FUJIグループは
時代の一步先を見据え、常に新しい価値を創造し、
お客様に驚きと感動を与えられる製品・サービスを提供することで、
世界中の「もっと」に応えます。

成長戦略

FUJI robots lead the way

ロボットで未来を拓くFUJI

FUJIグループは
独創的な製品をタイムリーに市場に提供し続けるとともに、
ロボット技術を軸に時代を捉え変革にチャレンジすることでものづくりを極め、
ロボットメーカーとして躍進していきます。

お客様に感動を与えられるソリューションを提供し、FUJIブランドの価値を高めてまいります

2020年3月期(2019年4月1日から2020年3月31日)のアンニュアルレポートをお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

2020年3月期は、先の見えない米中貿易摩擦、イランを中心とする中東情勢の悪化、イギリスのEU離脱問題など不安定な国際情勢に加え、日本国内では東日本を中心とする台風による甚大な被害、さらに今年に入ってからは新型コロナウイルスの世界的な蔓延など、国内外の景気に大きなインパクトを与える出来事が次々と発生し、世界経済も減速傾向に転じました。

このように目まぐるしく変化していく環境のなか、私たちは「デジタル革命を先取りした次世代型商品の開発ならびに生産・販売革新により業界No.1ブランドを築く」というコーポレートビジョンのもと、来たるべき未来を見据えた魅力ある商品の市場への投入や、同時にコストや効率を追求した生産体制、市場シェアや顧客満足度の向上を目指す販売体制の構築などに積極的に取り組んでまいりました。その結果、2020年3月期の業績は2020年2月に修正した計画を達成することができました。

ロボットソリューション事業では、電子部品実装ロボット市場におけるトップシェアの確保を目標に掲げてまいりました。これは既に達成に至ってはおりますが、さらなるシェア拡大を目指すために、新製品の開発などに、これまで以上にスピード感を持って邁進してまいります。

マシンツール事業では、残念ながら工作機械業界の足元の景気は芳しくなく、苦しい状況にあることは否めません。しかしながら、販売戦略と連動した製品開発や、より効率的な生産体制の構築に継続して取り組んでまいります。



新規事業分野におきましては、自社製リニアモーターの外販に向けた新会社の設立、ロボットラインアップの拡充などを行ってまいりました。2021年3月期では引き続きこれらの開発を加速させ、イノベーションを起こすような新規事業の創出を推進してまいります。

最後に、企業は事業の成長を実現するのはもちろんですが、社会の公器としての責任を果たしていくことも求められています。私たちは、ロボット技術で社会課題の解決や、人々が幸せになる持続可能な社会の実現など、新たな価値の創造にも取り組んでまいります。

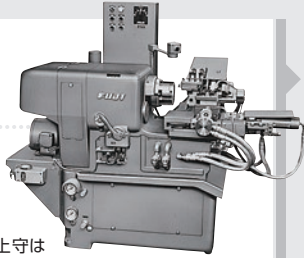
代表取締役社長

須原信介

1959年

わずか170m²の
作業場からの船出

1959年4月7日、創業者・坂上守は同志13名とともに、自らが理想とする工作機械を世に送り出すために富士機械製造株式会社を設立。自社ブランド1号機であるFS型単能機は、その類を見ない高生産性から、一躍業界の寵児となりました。



1959

1971年 事業基盤強化に向けた
新分野へのチャレンジ

景気変動にも耐えうる経営基盤を作り上げるため、工作機械で培ったノウハウを活かしてさまざまな自動組立機の開発に積極的に取り組みました。そこで積み上げた技術が、後の電子部品自動組立機の開発へと繋がりました。

1970

1978年

電子部品自動組立機
市場に本格的に参入

トランジスタラジオ、テレビ、電卓などの電化製品にさまざまな電子部品が使用されるなか、1台で多様なリード線付電子部品をプリント基板に連続挿入できる、世界初の電子部品自動挿入機「BA」を開発しました。



1980

国内で培ったものづくり力を海外にも展開

中国江蘇省昆山市に、当グループ初の海外生産拠点となる昆山之富士機械製造有限公司を設立。当社製品最大の消費地である中国市場に向けて、主にクリームはんだ印刷機とNC自動旋盤の生産・販売を行っています。



2012年

2003年

電子部品実装の新コンセプト!
NXTシリーズの登場

完全モジュール構造による自由なマシンレイアウトを可能にしたモジュール型高速多機能装着機「NXT」をリリース。現在まで進化を重ね、シリーズ累計9万台以上の出荷を誇る、FUJIの歴史を象徴する名機が誕生しました。



1990

2013年

NXTシリーズのDNAを
受け継いだ「DLFn」の誕生

「NXT」開発で培ったモジュールコンセプトを、工作機械の開発にも応用して完成したモジュール型生産設備「DLFn」をリリース。これまでの工作機械の常識を覆す機械であり、工作機械業界に新しいものづくりの形を提案しました。



2000

新たなビジネスモデル
の確立へ 2016年

工作機械、電子部品実装ロボットに続く第3の事業の柱を求めて常に開発を続けているFUJI。地道な開発が実を結び、パブリックストックシステム「Quist」、移乗サポートロボット「Hug」をリリースしました。

2010

2018年 新たな
企業価値の創出へ

創立60周年を機に、「株式会社FUJI」へ社名変更。また半導体製造装置メーカーであるファースフォードテクノロジー株式会社を子会社化しました。表面実装技術と半導体後工程技術を融合させ、新たな事業領域の創出を目指します。

2020

2019年

FUJI Smart Factory Platform
「NXTR」発表

生産ラインの無人化を目指し、世界初の自動部品補給システムを搭載したハイエンドモデル「NXTR」を発表しました。





売上高
(2020年3月期)

1,410 億円



従業員数
(2020年3月末時点)

2,493 名



時価総額
(2020年3月末時点)

1,507 億円



自己資本比率
(2020年3月末時点)

84%



海外売上高比率
(2020年3月期)

90%



累計出荷国数
(2020年3月末時点)

60ヶ国以上



ROE
(2020年3月末時点)

9.1%



売上高研究開発
投資比率
(2020年3月期)

6%

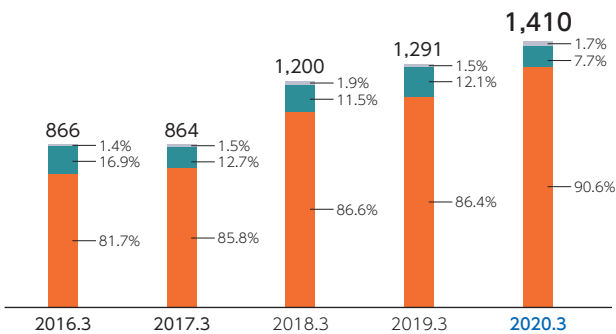


有休取得率
(2020年3月期)
※単体ベース

86%

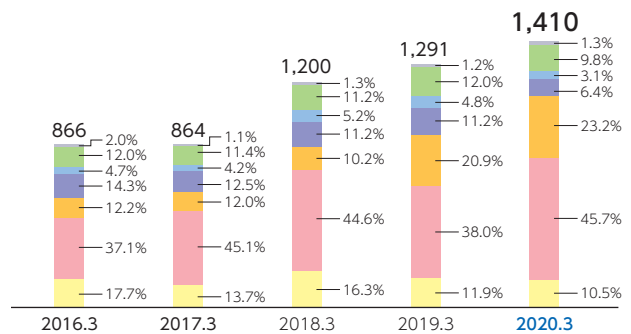
セグメント別売上高(億円)

■ロボットソリューション事業 ■マシンツール事業 ■その他



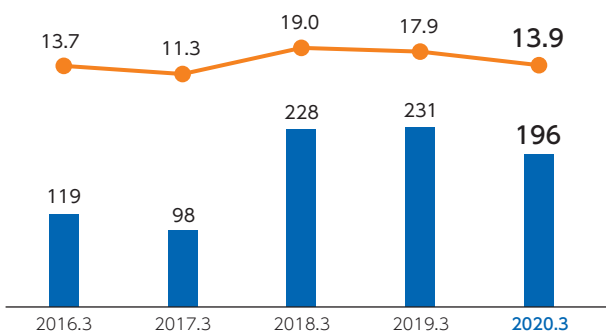
地域別売上高(億円)

■日本 ■中国 ■他アジア ■米国 ■他北米 ■ヨーロッパ ■その他



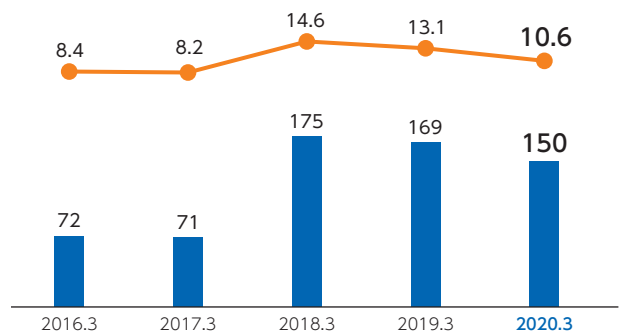
営業利益・営業利益率

■営業利益(億円) ●営業利益率(%)



親会社株主に帰属する当期純利益
当期純利益率

■親会社株主に帰属する当期純利益(億円) ●当期純利益率(%)



マネジメント体制：取締役



代表取締役会長
曾我 信之

1975年 当社入社
2007年 取締役 執行役員
秘書室室長
人事部部长
2008年 取締役 常務執行役員
2009年 代表取締役社長
2019年 代表取締役会長(現任)



代表取締役社長
須原 信介

1981年 当社入社
2008年 執行役員 ハイテック事業本部副本部長
2010年 取締役 執行役員
2012年 取締役 常務執行役員
2013年 取締役 常務執行役員
ハイテック事業本部本部長
2015年 取締役 専務執行役員
ハイテック事業本部本部長
2018年 取締役 副社長執行役員
ロボットソリューション事業本部本部長
2019年 代表取締役社長
ロボットソリューション事業本部本部長
2020年 代表取締役社長(現任)



取締役 常務執行役員
江崎 一

2003年 当社入社
2011年 執行役員 経営企画室室長
2015年 取締役 執行役員 市場戦略部部长
2018年 取締役 執行役員
工作機械事業本部副本部長 営業部部长
2019年 取締役 常務執行役員
マシンツール事業本部副本部長
営業部部长
2020年 取締役 常務執行役員(現任)
マシンツール事業本部本部長(現任)
営業部部长(現任)

主要な兼職

フジ マシン アメリカ コーポレーション 会長
昆山之富士機械製造有限公司 董事長



取締役 常務執行役員
杉浦 昌明

1986年 当社入社
2015年 執行役員
ハイテック事業本部第一営業部部长
2018年 取締役 執行役員
ロボットソリューション事業本部副本部長
第一営業部部长
2020年 取締役 常務執行役員(現任)
ロボットソリューション事業本部本部長
(現任)

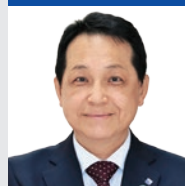
主要な兼職

富社(上海)商貿有限公司 董事長
フジ インディア コーポレーション 会長



取締役 執行役員
巽 光司

2009年 当社入社
2012年 執行役員 経理部部长
2014年 取締役 執行役員(現任)
経理部部长(現任)



取締役 執行役員
加納 淳一

1987年 当社入社
2017年 執行役員 秘書部部长
2020年 取締役 執行役員(現任)
経営管理部部长(現任)



社外取締役
川合 伸子

1992年 弁護士登録
西村眞田法律事務所入所
1998年 川合伸子法律事務所設立(代表者)(現任)
2002年 公益財団法人交通事故紛争処理セン
ター囑託(現任)
2009年 愛知県弁護士会 副会長
2012年 国立大学法人名古屋大学大学院法学
研究科教授
2015年 当社社外取締役(現任)
2017年 イビデン株式会社 社外取締役(現任)

主要な兼職

川合伸子法律事務所 代表者
イビデン株式会社 社外取締役



社外取締役
玉田 秀彰

1970年 三洋電機株式会社入社
1995年 SANYO ENERGY EUROPE 社長
2006年 SANYO EUROPE 社長
2011年 TONG SAN ELECTRIC CO. LTD 顧問
2019年 当社社外取締役(現任)



社外取締役
水野 象司

1977年 丸文株式会社入社
2005年 丸文セミコン株式会社 代表取締役社長
2013年 丸文株式会社 代表取締役社長
2020年 丸文株式会社 取締役相談役
当社社外取締役(現任)

マネジメント体制：監査役・執行役員



常勤監査役
畔柳 泰明

1989年 当社入社
2007年 ハイテック事業本部事業企画室室長
2010年 ハイテック事業本部生産管理部部長
2011年 株式会社エデックリンセイシステム
取締役
2013年 ハイテック事業本部企画部部長
2015年 監査部部長
2018年 常勤監査役(現任)

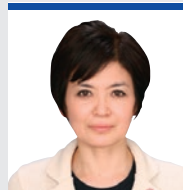


社外監査役
松田 茂樹

1986年 監査法人 丸の内会計事務所
(現 有限責任監査法人 トーマツ)入所
1990年 公認会計士登録
1993年 税理士登録
1994年 松田公認会計士事務所設立(代表者)(現任)
2004年 税理士法人あいき設立(代表者)(現任)
2013年 当社社外監査役(現任)
2015年 ローランド ディー. ジー. 株式会社 社外
監査役(現任)

主要な兼職

松田公認会計士事務所 代表者
税理士法人あいき 代表者
ローランド ディー. ジー. 株式会社 社外監査役



社外監査役
山下 佳代子

1992年 中央新光監査法人入所
1996年 公認会計士登録
1997年 公認会計士三宅事務所入所
2006年 山下公認会計士事務所設立(代表者)
(現任)
2008年 税理士登録
2015年 当社社外監査役(現任)
株式会社ソトー 社外監査役(現任)

主要な兼職

山下公認会計士事務所 代表者
株式会社ソトー 社外監査役



上席執行役員
安田 公彦

1980年 当社入社
2004年 液晶関連事業本部制御技術部部長
2012年 執行役員 技術開発部部長
2013年 執行役員
株式会社エデックリンセイシステム
代表取締役社長
2017年 上席執行役員
株式会社エデックリンセイシステム
代表取締役社長
2020年 上席執行役員(現任)
開発センター長(現任)



上席執行役員
片山 正己

1981年 当社入社
1982年 欧州駐在員事務所出向
1996年 フジ アメリカ コーポレーション出向
2006年 ハイテック事業本部品質保証部部長
2011年 執行役員
ハイテック事業本部開発評価部部長
2012年 執行役員 資材調達本部部長
2016年 上席執行役員(現任)
調達本部部長(現任)



上席執行役員
勝見 裕司

1983年 当社入社
2008年 ハイテック事業本部機械技術部部長
2012年 ハイテック事業本部開発評価部部長
2015年 執行役員 岡崎工場長
ハイテック事業本部生産管理部部長
2018年 上席執行役員 岡崎工場長
ロボットソリューション事業本部第二生産部部長
2020年 上席執行役員(現任)
ロボットソリューション事業本部副本部長(現任)
岡崎工場長(現任) 検査部部長(現任)

主要な兼職

FUJILIRIA株式会社 代表取締役社長



執行役員
鈴木 隆紀

1986年 当社入社
2009年 人事部部長
秘書室室長
2010年 ハイテック事業本部事業企画室室長
2013年 秘書部部長
2015年 秘書部部長
人事部部長
2017年 総務部部長
2018年 執行役員(現任)
総務部部長(現任)



執行役員
村上 浩

2016年 当社入社
2017年 情報システム部部長
2020年 執行役員(現任)
ロボットソリューション事業本部
営業技術部部長(現任)



執行役員
酒井 一俊

1985年 当社入社
2009年 工作機械事業本部品質保証部部長
2010年 工作機械事業本部事業企画室室長
2012年 工作機械事業本部生産管理部部長
2014年 執行役員
工作機械事業本部生産管理部部長
2015年 執行役員
工作機械事業本部副本部長
生産管理部部長
2020年 執行役員(現任)
マシンツール事業本部副本部長(現任)
生産管理部部長(現任)
生産部部長(現任)



取締役 常務執行委員
ロボットソリューション事業本部本部長
杉浦 昌明

製品ラインアップの拡充と自動化提案の推進によりマーケットシェアの拡大を目指します

2020年3月期は、中国をはじめとするアジア市場を中心にスマートフォンや次世代通信規格5G関連向けの設備需要が旺盛でした。また、2018年8月に子会社化したファスフォードテクノロジー株式会社の連結効果も寄与し、セグメント売上高は1,278億円と過去最高となりました。しかしながら、価格競争が一層激化したことなどによりセグメント営業利益は234億円(前年同期比6.6%減)となりました。

足元に目を向けますと、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大や米中貿易摩擦を中心とした不安定な国際情勢など、世界経済の先行きは不透明さを増しています。そのような環境下にあっても、外部要因に左右されない筋肉質な事業体制を構築していかなばなりません。2019年6月には現在の主力製品「NXTⅢ」の特長であるモジュールコンセプトは継承しながらも、さらなる自動化を追求し、世界初となる自動部品補給システムを備えた新製品「NXTR」を発表しました。さらには基幹ソフトウェア「Nexim」をベースとして、お客様の生産ラインのIoT化を支える「FUJI Smart Factory」構想も加速させ、製品とサービス両面からお客様に感動をご提供できるよう事業展開してまいります。

2020年3月期市場環境・実績

- 中国を中心とするスマートフォン、次世代通信規格5G関連向け設備が大きく伸張
- 日本国内、および欧米では自動車関連を中心とした設備投資が軟調に推移
- Smart Factoryの未来を見据えた新製品「NXTR」を発表

製品の特徴／強み

電子部品実装ロボット

NXTR



NXTシリーズのモジュールコンセプトを踏襲しつつ、「実装不良ゼロ」・「オペレーターゼロ」・「機械停止ゼロ」の「3つのゼロ」を実現するハイエンドモデルです。

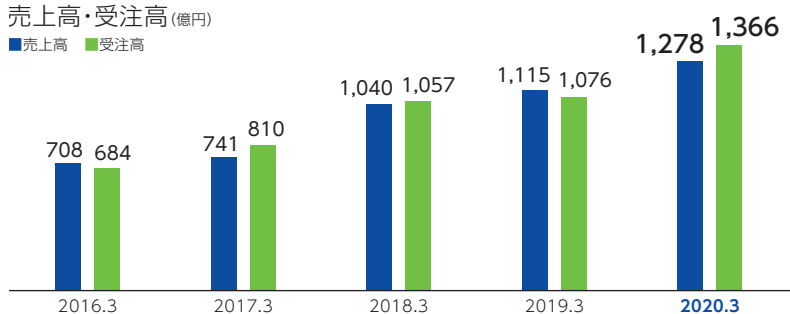


電子部品実装ロボットとは？

自動車や家電製品、スマートフォンなど、私たちの暮らしはさまざまな電子製品に囲まれています。これら電子製品の要となるプリント基板に、大きさや形状の異なる電子部品を装着する装置が電子部品実装ロボットです。FUJIでは業界No.1の面積生産性を誇るNXTシリーズを中心とした高速・高精度な製品を多数揃えています。

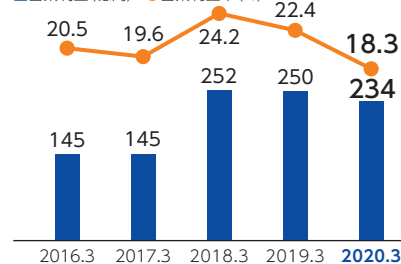
売上高・受注高(億円)

■売上高 ■受注高



営業利益・営業利益率

■営業利益(億円) ●営業利益率(%)





取締役 常務執行役員
マシンツール事業本部本部長

江崎 一

FUJIグループ全体での連携を強め、 事業価値を高めてまいります

2020年3月期は、主に中国および北米市場における自動車販売低迷の影響を受け、セグメント売上高は108億円(前年同期比30.8%減)、営業損益は6億円の損失となりました。

今後につきましては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により景気低迷の長期化が懸念されますが、中長期的には自動化や効率化への設備投資が拡大していくことは間違いありません。来たるべき市場回復期に安定して利益が出る事業体質にするため、グループ会社同士の連携を深め、ものづくり力の強化を図ってまいります。

2019年5月より稼働を開始した豊田事業所の新生産棟においては、FUJIグループのマザー工場としてIoTを活用した効率の高い生産体制の構築に取り組んでおります。また、中国市場における競争力を高めるため、昆山之富士機械製造有限公司(中国・江蘇省)では2019年に発表した新製品「CSD300II」の現地生産も開始しております。

より高い品質とサポートを実現し、お客様の信頼に応えるよう事業部一丸となって取り組んでまいります。

2020年3月期市場環境・実績

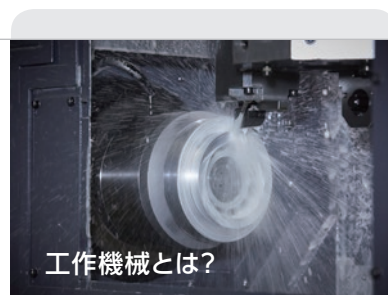
- 中国および北米市場における自動車関連の設備投資軟調
- 新型コロナウイルス感染拡大による影響も含め、国内外ともに景況感悪化
- 昆山之富士機械製造有限公司にて工作機械の新製品生産開始

製品の特徴／強み

正面2スピンドル旋盤

CSD 300 II

高速3軸ガントリタイプロボットを搭載した省スペース正面2スピンドル旋盤です。重切削も可能な高剛性スライドと、優れた熱変位性能を誇ります。

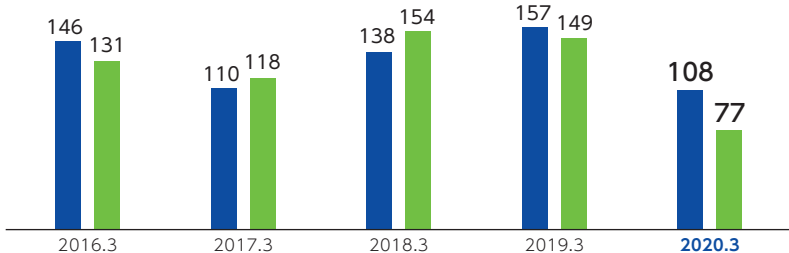


工作機械とは?

自動車や産業用機械などを構成する高精度な加工部品。これらを作り出すために、金属素材を切削・加工する役割を担うのが「マザーマシン」とも呼ばれる工作機械です。FUJIでは、主に自動車業界向けのNC旋盤を中心とした工作機械を多彩にラインアップしています。

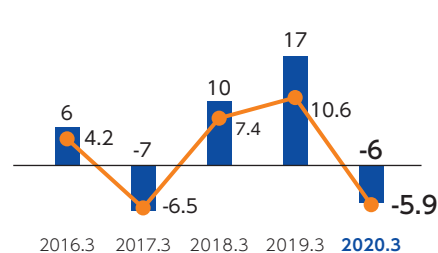
売上高・受注高(億円)

■売上高 ■受注高



営業利益・営業利益率

■営業利益(億円) ●営業利益率(%)





上席執行役員
開発センター長

安田 公彦

ロボット技術を軸にイノベティブな事業開発に努めます

FUJIがロボットカンパニーとして成長し続けるためには、既存事業・技術のさらなる進化に加え、次世代事業の創出が不可欠です。長年培ってきた技術を活かし、これまでに小型多関節ロボット「SmartWing」、大気圧プラズマユニット「Tough Plasma」、移乗サポートロボット「Hug」、パブリックストックシステム「Quist」など数々の革新的な製品を市場に投入してまいりました。2020年3月期においては「Hug」新モデルの市場投入に加え、「SmartWing」新モデルを展示会に参考出品するなど、市場のニーズに応えるラインアップの拡充を図りました。さらには、以下のような未来を見据えた新規事業開発にも取り組んでおります。

◎リニアモーターの開発・製造・販売を行うFUJIRニア株式会社を2020年2月に設立

◎ロボットシステムインテグレータの業務を支援するプラットフォーム「e-Sys」の運用を開始

◎電子デバイスプリンター「FPM-Trinity」を活用した小型電子機器の試作サービスを開始

◎朝日インテック株式会社様と共同でメディカルロボットを開発中

これらの開発を加速させていくことで、コア技術の深耕・強化と、イノベティブな事業の創出を推進しFUJIブランドの価値を高めてまいります。

小型多関節ロボット

座標補正技術とビジョンデータの活用で、従来のロボットで必要だった現物あわせでのティーチングが不要となり、立ち上げに要する時間を大幅に短縮します。



大気圧プラズマユニット

接着や塗装の前処理としてプラズマを照射することで、接着剤や塗料の密着性が向上します。低温処理により、熱に弱い素材にも対応可能です。さまざまな機能を備えた材料や部品の開発をサポートします。



移乗サポートロボット

介護現場においてベッドから車椅子、車椅子からお手洗いといった座位間の移乗動作や、脱衣所での立位保持をサポートするロボット。FUJIの先進技術と思いやりが、介護のスタイルを大きく変えます。



パブリックストックシステム

IoTを駆使し、通販サイトやネットスーパーの商品の受け取りを可能にする次世代宅配ロッカーシステム。暮らしのあらゆるシーンで、お客様の「受け取り」を快適にします。



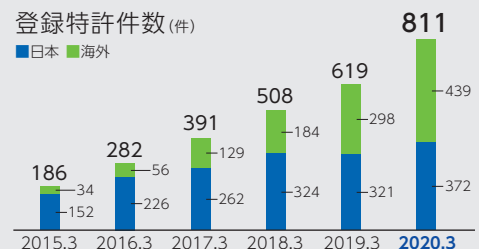
知的財産戦略

グローバルに事業競争力を強化する知財戦略

当社は、事業戦略・技術戦略・知財戦略が三位一体となった知財活動を進めており、海外にも積極的に特許出願を行っています。その結果、2020年3月期の登録特許件数は800件を超えました。2021年3月期は、先行している自動化技術についてさらに強固な特許網を張り巡らせるとともに、成長戦略に裏付けされたデファクトスタンダードを確立していけるよう、継続して競争力強化に繋がる知財戦略を展開してまいります。

登録特許件数(件)

■日本 ■海外





取締役 執行役員
経理部部长

巽 光司

成長に向けた戦略的投資と 安定的な株主還元の継続に努めます

当社は、高水準の研究開発投資と生産・販売革新によって業界No.1ブランドを築くとともに、将来の成長に向けた周辺事業、新規事業への戦略的投資や設備投資も積極的に進めていくことで企業価値の増大を目指しており、こうした事業展開に伴う資金需要には原則として自己資金を充当することとしております。

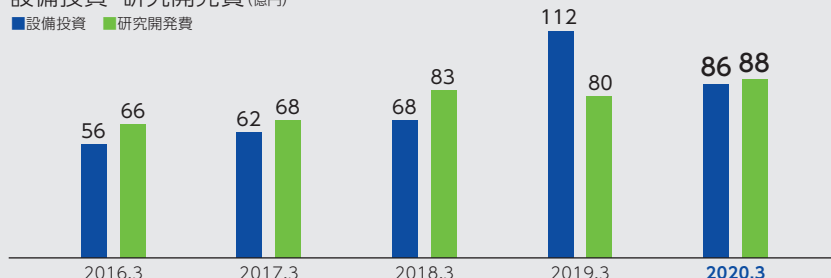
また、株主の皆様への継続的な利益還元を最重要施策のひとつとして位置付け、資本効率の向上、安定配当の維持にも努めます。

将来に向けた戦略的投資としましては、2018年3月期から2019年3月期にかけて新工場建設、半導体製造装置メーカーの株式取得などの大型投資を実施してまいりましたが、2020年3月期は機械設備の更新投資などにとどまりました。

現在の新型コロナウイルス感染拡大の影響などによる世界的な経済活動の停滞がさらに長期化した場合には、金融市場において信用収縮リスクも懸念されるため、不測の事態に備えて十分な手元流動性を確保することにも留意してまいります。

さらには、自己株式の取得も資本効率向上の有効な施策のひとつであり、当社の業績、株式市場や経済の動向などを勘案し、適切かつ機動的な実施を検討してまいります。

設備投資・研究開発費(億円)



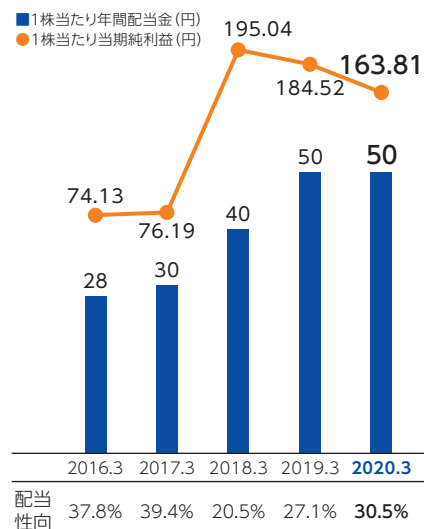
IR活動への取り組み

株主、投資家の皆様と長期的に安定した関係を築くため、適切な利益配分と適正・公平かつタイムリーな情報開示に取り組んでおります。

また、代表取締役・担当役員などが公平性・正確性・継続性を重視しつつ、経営戦略・事業部戦略・財務情報などについて、双方向の良好なコミュニケーションを図るIR活動を展開し、建設的な対話の実現できるよう努めております。

項目	2020年3月期実績	
	回数	参加者
個人投資家向けIRイベント参加	2回	387名
四半期毎にアナリスト・機関投資家向け決算説明会を開催	4回	150名
アナリスト・機関投資家との個別面談を随時実施	170回	219名
海外機関投資家向けカンファレンスに参加し、面談を実施	2回	31名

1株当たり年間配当金・ 1株当たり当期純利益



ESGを意識したものづくりを推進し、豊かな社会づくりに貢献し続けます



当グループは1959年の創業以来、「我々は需要家の信頼に応え、たゆまぬ研究開発に努め、最高の技術を提供する」の社訓のもと、工作機械や電子部品実装ロボットをはじめとした、世界中の「ものづくり」の現場を支える製品を送り出してきました。

社員一人ひとりが株主様、お客様、お取引先様、地域社会などとの絆を大切にしながら、日々の企業活動に取り組んでいます。昨今世界中で取り組みが加速している「SDGs」の精神は、まさに当社がこれまで創業以来積み重ねてきた「豊かな社会づくりに貢献する新しい価値と市場の創造」と合致するものです。これからも、社会とともに持続可能な発展を目指し、企業の社会的責任を全うしてまいります。

環境 Environment

環境への取り組み

環境基本方針

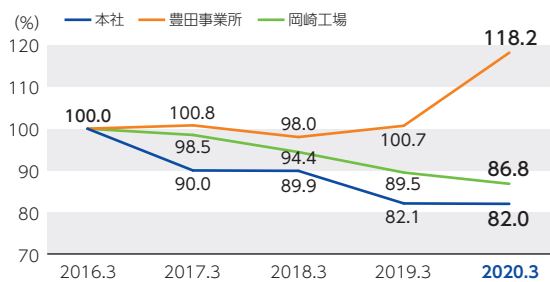
環境保全活動を経営課題のひとつと位置付け、豊かで美しい自然環境を次世代に残すため、全社をあげて環境保全活動に取り組んでいます。地球環境の保全が人類共通の最重要課題のひとつであることを認識し、環境に配慮した企業活動を実施します。



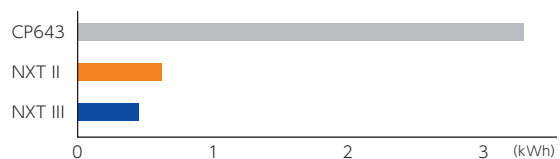
環境管理5ヵ年計画 (2017年3月期～2021年3月期)

活動項目	2021年3月期目標
地球温暖化防止対策	生産効率向上、省エネ活動の啓蒙・推進など
	エネルギー消費原単位1%削除(2020年3月期比)
資源循環推進	省資源活動の啓蒙・推進など
製品対策	環境配慮(省電力・省スペース)製品の開発

エネルギー消費原単位の推移 (2016年3月期を100%とした場合)



省エネルギー製品の開発



上のグラフは、電子部品を10,000点装着するのに必要な消費電力量です。「NXTⅢ」を用いると、従来製品「NXTⅡ」と比べてチップ一点あたりの消費電力を26%(前シリーズ製品「CP643」と比べて88%)削減できます。



トピックス 「ホワイト物流」推進運動への賛同

国土交通省・経済産業省・農林水産省が推進する「ホワイト物流」推進運動の趣旨に賛同し、持続可能な物流環境の実現に向け、自主行動宣言を提出しました。物流業者の働きやすい環境づくりとともに地球環境保全を意識し、物流品質の向上や梱包材の削減を目的とした通い箱の積極的な活用などを進めています。

また、当社独自の取り組みとして自社開発したパブリックストックシステム「Quist」を事業所や商業施設へ設置することで、宅配業者の再配達を減らし、CO₂排出量削減に貢献しています。

社会 Society

企業活動を継続していくなかで、社会の一員として、ステークホルダーの皆様と調和の取れた発展を目指していきます。

従業員の仕事改革と健康推進

ジェンダーとダイバーシティ(多様性)

育児・介護休業、育児・介護短時間勤務制度、看護・介護休暇制度など、多様な働き方、仕事と育児・介護の両立を支援する制度の充実を図っています。また、社会貢献活動を行う社員に対してボランティア休暇制度も用意しています。毎週金曜日の会社全体ノー残業デーの設定も行ってあり、ワークライフバランスにも積極的に取り組んでいます。

人材育成

若手・中堅社員の教育に力を入れています。入社1年目の技術系社員が配属前に入塾する「創開塾」では、専攻外の知識の習得と実践的なロボットの開発を行うことで、仕事を遂行する前のひとつの



経験として生みの苦しみや開発の達成感を感じてもらいます。また、組織内での統率力や円滑なコミュニケーションの方法などを学ぶリーダー研修、海外で活躍できる人材を育てるグローバル教育なども実施し、社内教育の充実を図っています。

健康経営

2018年度にFUJI健康経営宣言を掲げ、健康経営を推進する体制の構築とともに、活動実績の見える化を行うことで、評価・改善に繋げております。その結果、健康経営優良法人 2020(大規模法人部門)に認定されました。

地域との共生・教育

地域社会の一員として、「地域の皆様に愛され、親しまれるFUJI」を目指してさまざまな活動を展開しています。

地域児童向けに“えいご”をつかって“かがく”を学ぶイングリッシュ



アフタースクール「teracoya THANK」を運営し、世界で活躍できる人材を育てています。また、地域のお祭りや文化活動への支援なども行っております。

ガバナンス Governance

ガバナンスへの取り組み

基本的な考え方

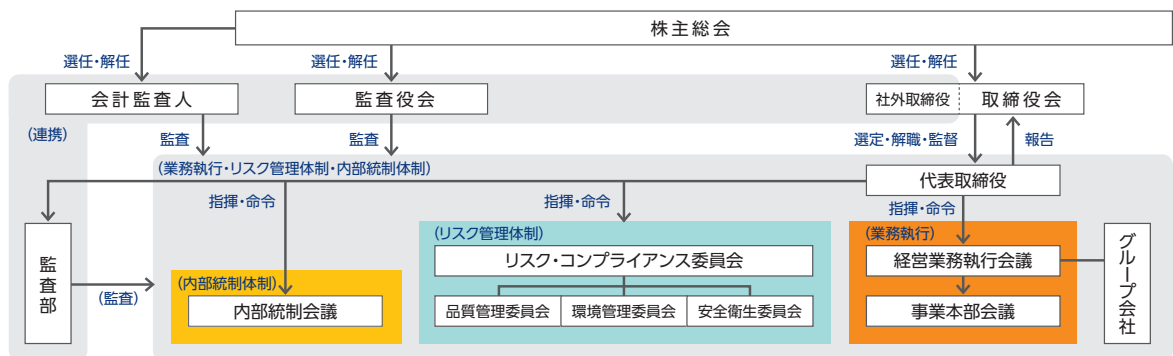
当グループは、株主様、お客様、お取引先様および従業員にとってより高い企業価値の創造に努めることを重要課題と認識し、経営環境の変化に迅速かつ的確に対応できる組織体制と公正かつ透明性のある経営システムの構築・充実ならびにリスク・コンプライアンス体制の強化に努めています。

コーポレート・ガバナンス体制

取締役の人数	9名	(うち社外取締役の人数3名)
監査役の人数	3名	(うち社外監査役の人数2名)
独立役員の数	5名	
取締役会の年間開催回数	13回	(予定)
取締役の任期	1年	
執行役員制度の採用	有	
執行役員の数	10名	

2020年6月26日現在

コーポレート・ガバナンス体制図



会社概要

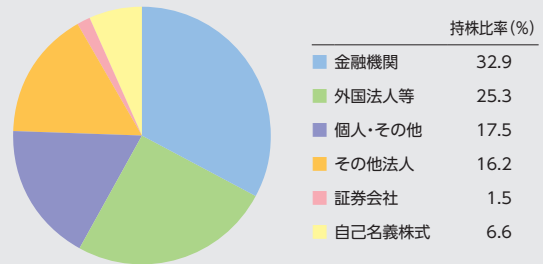
商号	株式会社FUJI FUJI CORPORATION	上場市場	東京証券取引所市場第一部 名古屋証券取引所市場第一部
本社所在地	愛知県知立市山町茶碓山19番地	主要な事業内容	電子部品実装ロボットおよび 工作機械の製造、販売
設立	1959年4月	従業員数	連結2,493名 単体1,689名 (2020年3月31日現在)
資本金	5,879百万円		

株式の状況 (2020年3月31日現在)

発行可能株式総数 390,000,000株
 発行済株式の総数 97,823,748株
 株主数 9,083名
 大株主(上位10名)

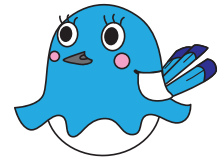
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
大同生命保険株式会社	6,280	6.87
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,781	6.32
株式会社三菱UFJ銀行	4,272	4.67
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,806	4.16
FUJI取引先持株会	2,982	3.26
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE IEDU UCITS CLIENTS NON LENDING 15 PCT TREATY ACCOUNT	1,913	2.09
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	1,731	1.89
株式会社名古屋銀行	1,554	1.70
三菱UFJ信託銀行株式会社	1,483	1.62
JP MORGAN CHASE BANK 385151	1,467	1.60

所有者別分布状況



マスコットキャラクターのご紹介

皆様からより愛される会社を目指したマスコットキャラクター「FUJILALA (フジララ)」です。よろしくお願いたします。



(注) 1. 当社保有の自己株式(6,479,108株)については、上記上位10名の株主から除外しております。
 2. 持株数は千株未満を切り捨て、持株比率は自己株式を控除して計算し小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

連結子会社

会社名	所在地	設立	会社名	所在地	設立
株式会社アドテック富士	愛知県	1977年 4月	フジ アメリカ コーポレーション	アメリカ	1970年 4月
株式会社エデックリンセイシステム	愛知県	1992年11月	フジ マシン アメリカ コーポレーション	アメリカ	1994年11月
ファスフォードテクノロジー株式会社	山梨県	2015年 3月	フジ ヨーロッパ コーポレーション ゲーエムベーハー	ドイツ	1991年11月
FUJIリニア株式会社	愛知県	2020年 2月	タワーファクトリー ゲーエムベーハー	ドイツ	2013年 2月
			富社(上海)商貿有限公司	中国	2007年11月
			昆山之富士機械製造有限公司	中国	2012年 1月
			フジド ブラジル マキナス インダストリアイス リミターダ	ブラジル	1995年11月
			フジ インディア コーポレーション プライベート リミテッド	インド	2019年12月

